

■ 産業観光部

I 実り多い産業と、人々の集うまちづくり

§ 2 人が行き交う道路・交通ネットワークづくり

- 県営基幹農道整備事業 【幹線道路網の整備】 No.2-6
- 農道台帳管理事業 【幹線道路網の整備】 No.2-7

§ 4 人々の交流を盛んにするしくみづくり

- 地域環境資源活用推進事業 【豊かな農村環境の活用】 No.4-14

§ 5 もてなしの心があふれる観光地づくり

- 観光総務事業 【観光施設の管理費・観光団体の補助】 No.5-15
- 重○ 観光宣伝事業費 【海外誘客促進インバウンド推進事業】【石和温泉街周辺活性化事業】 No.5-16
- 観光イベント事業 【笛吹市の観光イベント】 No.5-17
- ハイキングコース整備事業 【安全安心な登山道の整備】 No.5-18
- 兜造り茅葺古民家藤原邸指定管理事業 【指定管理委託】 No.5-19
- すずらんの里指定管理事業 【指定管理委託】 No.5-20
- すずらん群生地保護事業 【日本すずらんの保護】 No.5-21

§ 6 桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり

- 重○ 農業総務費 【世界農業遺産登録事業】【援農支援システム事業】 No.6-22
- 農業用機械補助事業 【農業用機械の購入・リース補助】 No.6-23
- 新規就農者支援事業 【新たな農業の担い手の確保】 No.6-24
- 鳥獣害等防止対策強化事業 【農産物等の鳥獣被害の防止】 No.6-25
- 農地中間管理事業 【農地の集積化促進】 No.6-26
- 農地流動化地域総合推進事業 【農地利用促進事業】 No.6-27
- 果樹共済加入補助費 【農業経営の支援】 No.6-28
- 地域農業振興事業費 【農地利用の促進】 No.6-29
- 農産物等消費拡大宣伝事業費 【農産物の販路拡大支援】 No.6-30
- 中山間地域等直接支払推進事業 【担い手の確保と農地保全】 No.6-31
- 地産地消推進事業 【地域農業の活性化】 No.6-32
- 県営畑地帯総合整備事業 【農道・水路・圃場等の改修、整備】 No.6-33
- 中山間地域総合整備事業 【農道・水路・圃場等の改修、整備】 No.6-34
- 県営用地補償契約事務委託事業 【地元地権者との用地交渉】 No.6-35
- 笛吹川沿岸土地改良事業 【地域給水栓の維持管理と負担金の支払い】 No.6-36
- 土地改良事業 【各種土地改良事業の総合的経費】 No.6-37
- 農業施設整備事業 【農業基盤の整備】 No.6-38
- 資源保全事業 【生産性の高い近代的な農業の振興】 No.6-39
- 林道維持管理費 【林道の整備】 No.6-40
- 農林水産施設災害復旧費 【自然災害からの復旧】 No.6-41

§ 7 活力ある地域経済づくり

- 重○ 企業立地推進事業 【企業の誘致】 No.7-46
- 労働総務事業 【就職ガイダンスの開催】 No.7-47
- シルバー人材センター補助費 【高齢者の就業機会の確保】 No.7-48
- 商工総務費 【商工業者の活性化】 No.7-49
- 商工関係団体補助費 【商工業団体の育成支援】【笛吹市創業支援事業】 No.7-50
- 商工振興災害対策資金事業 【東日本大震災により影響を受けた事業者の経営支援】 No.7-51
- 小規模企業者小口資金融資促進費 【小規模企業者の経営支援】 No.7-52

事務事業名	2-6 県営基幹農道整備事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	2	人が行き交う道路・交通ネットワークづくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H16年度～H32年度)	
	1	6	1	5	10	8			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇県が計画を進めている高規格農道整備で、山間地域の優良農地を結ぶ幹線農道建設により、地域農産物の広域・高速出荷を可能とさせる農道整備事業で、市は事業費の1/6の負担金を支払う。 ◇基幹農道整備事業釈迦堂地区ではEP交差点の改良と橋梁の架替工事が実施され、東八中央地区では事業認定申請手続きを進めている。市では、工事に伴う用地交渉と契約事務を行った。	◇主な事業費(単位:千円) ○負担金 11,667

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	1,800	3,900	35,700	23,400	11,000
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	102	268	1,967	1,266	667
	事業費計 (A)	千円	1,902	4,168	37,667	24,666	11,667	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
	人件費計 (B)	千円	1,327	1,372	1,372	1,393	1,393	
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,229	5,540	39,039	26,059	13,060	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載
1次評価者【課長・局長】 合併前から関連町村の要望を基に財政負担1/6で、基幹農道の整備を県が行っているこの事業は、とても有効性があり、効率性もよいため高評価である。しかし、全線中の2ヶ所で未開通の部分があり、早期に着工・開通に向けて、諸手続きが県により行われているため、市も協力して行っていく。
2次評価者【部長・消防長・支所長】 事業の完結後には、大きな効果が期待できるため、今後、県と協力して対応してゆく。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)
目標 農道用地権利者数(延べ人数20人に対し契約できていない地権者4人) ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった 基幹農道の用地交渉において一部の地権者との交渉が難航しており一部用地の購入ができていないが、それ以外は順調に工事が進んでいる。今後も誠意を持ってあたり用地交渉にあたり全線開通できるように勤めていく。

事務事業名	2-7 農道台帳管理事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	2	人が行き交う道路・交通ネットワークづくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	50	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇農道台帳の更新、補正業務 ◇市で施行する新規の農道工事や農道改良工事又は、県営事業で整備されて市へ譲与された農道等を農道台帳に反映させ市内の農道の管理を行う。	◇主な事業費(単位:千円) ○委託料9,720 ○負担金90

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	9,100	9,250	9,702	9,702	9,810
	事業費計 (A)	千円	9,100	9,250	9,702	9,702	9,810	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10
	人件費計 (B)	千円	1,327	1,372	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,427	10,622	10,388	10,399	10,507	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 電子データとして、しっかり残しておく必要性は常に高く、精度も要求されることから、今後も継続して台帳整備を行う。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 適正な内容、支出であった。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 市内農道の適正な管理 目標の総延長320kmに対する加除修正延長8km実施。現況との不一致箇所の更新。	
● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
計画的に土地改良事業等による農道の改良・新設工事(主には県営事業にて譲与を受けた農道)を実施しており、これに伴う農道台帳の更新が必要である。また、現時点において不一致箇所についても毎年随時更新しており、今後とも計画的に進めていく。	

事務事業名	4-14 地域環境資源活用推進事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	4	人々の交流を盛んにするしくみづくり				担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H19年度～H51年度)	
	1	6	1	3	250	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
<p>◇事務事業の概要と実績</p> <p>桃・ぶどうなどの優れた農産物の一層なイメージアップを図るため、生産基盤周辺の豊かな自然環境や農村環境の資源等を活用する。農産物生産の源となるホタルの舞う清らかで豊かな水系環境をアピールするためホタル保護育成団体への助成を行う。</p> <p>【目的】 ホタル保護育成団体の活動に対し支援を行い、地域活性化を目指す。</p>	<p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>事業費の内訳 使用料 30千円 補助金 650千円</p>

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	650	650	680	680
	事業費計 (A)	千円	650	650	680	680	680
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.01	0.01	0.01	0.01
	人件費計 (B)	千円	66	69	69	70	70
トータルコスト(A)+(B)		千円	716	719	749	750	750
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>地域住民が積極的な取り組みを行っており、行政としても支援を行っていくことは妥当と考える。</p>	
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>最小限の支援の中、多くの地域住民が自主的に活動に参加しており、住民参加のモデルケースとなっている。</p>	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	ホタル観賞来場者数 400人
	○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった
	石和温泉組合とも連携して、ホタルのシーズンに誘客に努めある程度の来客(ほぼ毎年約2千人程度)があった。

事務事業名	5-15 観光総務事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光企画担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画	笛吹市観光振興計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	07	01	03	01	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

市で管理する施設の電気料等維持管理費、看板用地借地料、観光団体への補助及び負担金等により観光客の受け入れ体制等の充実を図る。また、地域おこし企業人が発案・企画する事業を支援する。

◇主な事業費(単位:千円)

報償費 4,130 需用費 2,772 石和温泉駅観光案内所指定管理委託料 6,190 使用料及び賃借料 858 負担金 4,266補助金 47,829

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	763	314	0	900	2,800
		一般財源	千円	60,944	58,586	64,237	69,419	66,023
	事業費計 (A)	千円	61,707	58,900	64,237	70,319	68,823	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	
	人件費計 (B)	千円	3,318	3,430	3,430	3,483	3,483	
トータルコスト(A)+(B)		千円	65,025	62,330	67,667	73,802	72,306	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

観光全般に関わる事業であることから、看板用地借地料、観光団体への補助及び負担金等により観光客の受け入れ体制等の充実を図り、各事業を支援する。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

観光事業の底上げを図るために必要な事業である

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 全国大会宿泊奨励交付件数・ワーキング会議検討

○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった

宿泊交付予定件数4,000人に対して7,000人の利用があった。

事務事業名	5-16 観光宣伝事業費					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光企画担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画	笛吹市観光振興計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	07	01	03	02	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 各種イベントのポスター・パンフレットの作成配布ならびに広告媒体を利用した宣伝活動を実施、また、観光防災アプリの充実・活用により来訪者の利便性の向上を図る。	◇主な事業費(単位:千円) 旅費 814 需用費 2,945 役務費 877 アプリ委託料 1,296 さくら温泉通り植栽改修工事 9,500 物産連盟補助金 28,500

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	8,000	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	16,402	13,310	14,684	16,000	26,000
		一般財源	千円	10,856	9,710	17,641	7,831	16,118
	事業費計 (A)	千円	27,258	23,020	40,325	23,831	42,118	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	人件費計 (B)	千円	664	686	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	27,922	23,706	41,011	24,528	42,815	
補助事業等		地域経済循環創造事業交付金						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 笛吹市の観光資源を広く宣伝しうることにより、産業経済の発展に寄与する。また、各種イベントのポスター、テレビ、ラジオ、雑誌の広告媒体を活用した事業を展開する。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 SNS等を活用し、全国、世界に発信した事業を展開していくように進めていく	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	セールスコール、トップセールスを行い後日問い合わせがあったもの
	○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった
	セールスコール及びトップセールスを行ったところ数件の問い合わせあり、誘客に結びついた

事務事業名	5-17 観光イベント事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光企画担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画	観光振興計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	07	01	03	03	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

本市の観光資源を強く打ち出し、多くの観光客を誘致するため、桃源郷春まつりや夏祭り、笛吹川石和鶴飼、ハウス桃宴等年間を通したイベントを各種観光関連団体と連携して実施する。

◇主な事業費(単位:千円)

ハウス桃花見委託料等 5,078
 桃源郷春まつり補助金 38,400
 夏祭り補助金 36,650
 スポーツイベント補助金 500
 鶴飼事業委託料等 5,532

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	2,883	3,643
	一般財源	千円	84,598	82,898	64,712	68,064	73,210
	事業費計 (A)	千円	84,598	82,898	67,595	71,707	90,310
人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
	人件費計 (B)	千円	13,270	13,720	13,720	13,930	13,930
トータルコスト(A)+(B)		千円	97,868	96,618	81,315	85,637	104,240
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

笛吹に誘客するための観光資源を強く打ち出し、多くの観光客を誘致するため、年間を通した目的地となる観光イベントを各種観光関連団体と連携して実施する。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

目的地となる観光地づくりをおこない、誘客につなげるようにする

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 イベントが年間を通じて開催され、観光客が増加する

○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった

年度	観光客入込客数	外国人	観光客入込客数
平成26年度	129万人	10万人	
平成27年度	154万人	20万人	
平成28年度	143万人	13万人	

事務事業名	5-18 ハイキングコース整備事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光企画担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画	観光振興計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	07	01	03	06	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 山梨百名山を中心としたハイキングコース等の維持管理及び整備、地元区や森林組合、民間事業者への作業委託を実施するとともに案内板等の設置を行なう。	◇主な事業費(単位:千円) 需用費 100 委託料 1,175

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	30	31	31	31
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	915	1,130	966	908
	事業費計 (A)	千円	945	1,161	997	939	975
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
	人件費計 (B)	千円	664	686	686	697	697
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,609	1,847	1,683	1,636	1,672
補助事業等		自然環境保全地区管理委託金					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 笛吹市の観光資源である、山梨百名山を中心としたハイキングコース等の維持管理及び整備し観光の誘客につなげる。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 笛吹市の観光資源である山々を観光とつなげた取り組みを行う。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	イベント参加者数(トレイルラン)
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
平成28年度	350人
平成29年度	400人

事務事業名	5-19 兜造り茅葺古民家藤原邸指定管理事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光企画担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画	単年度繰返(開始年度 H28年度~)		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間		
	01	07	01	03	16	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 指定管理制度による適切な管理運営とともに、民間活力導入による地域振興と活性化を図る。	◇主な事業費(単位:千円) 需用費修繕費 100 指定管理委託料 3,000

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	3,000
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	3,000	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.10
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	697	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	3,697	
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 芦川地区の古来からの建築様式を保存し、観光資産につなげた管理運営を行う。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 芦川地区の観光資源を有効に活用する。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	適切な管理運営を行う
	● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった
	指定管理を設定し、適切な管理運営が行われている。

事務事業名	5-20 すずらの里指定管理事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光企画担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H28年度～)	
	01	07	01	03	17	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 指定管理制度による適切な管理運営とともに、民間活力導入による地域振興と活性化を図る。	◇主な事業費(単位:千円) 需用費修繕費 1,000 指定管理委託料 1,500

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	1,500
		その他	千円	0	0	0	921
		一般財源	千円	0	0	0	0
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	2,421	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.10
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	697	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	3,118	
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 芦川地区の藤原邸を観光資源として活用し、指定管理を行い年間を通して、芦川地区に観光客を誘客できている。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 藤原邸の有効活用を行うため、指定管理制度により指定管理者を厳選し、芦川地区に観光客を誘客できようを実施した。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	適切な指定管理選定
	● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった
	指定管理制度に基づいて、指定管理者が選定された。

事務事業名	5-21 すずらん群生地保護事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	5	もてなしの心があふれる観光地づくり				担当名	観光企画担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H28年度～H30年度)	
	01	07	01	03	18	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 県自然記念物である芦川すずらん群生地の日本すずらんが減少しているため、保護育成試験を行い観光資源の維持存続を図る。	◇主な事業費(単位:千円) 保護調査委託料 500

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	500
		一般財源	千円	0	0	0	0
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	500	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.10
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	697	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	1,197	
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 全国でも珍しいすずらんの群生地を、観光資源として管理するため、指定管理を選定し管理運営を行う。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 すずらんの群生地を保護することを目的とし、観光事業にもつながる取り組みを行う。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	すずらん群生地の適切な管理運営
	● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった すずらんの群生地の下刈り等が適切に行われすずらんが開花し、管理運営されていた

事務事業名	6-22 農業総務費					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠	農業経営基盤強化法・農地法					個別計画	農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想(市)		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	06	01	02	02	02			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 果樹農業振興のため、必要な事業を実施	◇主な事業費(単位:千円) ・臨時職員賃金6,480千円(共済費・賃金) ・補助金および負担金5,051千円

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	2,167	7,909	8,642	7,017
	事業費計 (A)	千円	2,167	7,909	8,642	7,017	11,766
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
	人件費計 (B)	千円	1,327	1,372	1,372	1,393	1,393
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,494	9,281	10,014	8,410	13,159
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 地域農業の持続的発展・経営安定支援等の為には必要な制度である。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農業づくり推進のため、必要な制度である。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	認定農業者、就農者の維持確保
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
地域農業の担い手である、認定農業者・新規就農者等の維持確保が図られた。(H30.3月時点認定農業者904名、認定新規就農者3名)	

事務事業名	6-23 農業用機械補助事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H26年度～)	
	1	6	1	3	210	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 市の農業の将来を担う認定農業者、新規就農者に対し農作業の軽減及び機械化を推進・支援するために、農作業に必要な農業用機械の購入費・リース費を補助する。	◇主な事業費(単位:千円) 年間を通して、農作業に必要な農業用機械の購入費・リース費を補助する。 ○農業用機械購入補助 ・補助率1/5(限度額100千円) ○就農支援リース補助 ・補助率 リース料のうち物件購入価格の1/3以内

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	277
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	4,978	12,426	9,648
	事業費計 (A)	千円	0	4,978	12,426	9,925	17,400
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	人件費計 (B)	千円	664	686	686	697	697
トータルコスト(A)+(B)		千円	664	5,664	13,112	10,622	18,097
補助事業等		果樹王国やまなし就農支援事業					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 農作業の軽減及び機械化を推進・支援及び、認定農業者になる動機付けに有効な事業である。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 農作業の軽減及び機械化を推進・支援及び、認定農業者になる動機付けに有効な事業である。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	認定農業者数 970人
<input type="radio"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="radio"/> おおむね達成できた <input type="radio"/> 達成できなかった	
年度当初計画では認定農業者数を970人を目標とした。実績値は認定農業者数904人。農業者が減少する中において、目標は達成できたと言える。(事業費・170,615千円)	

事務事業名	6-24 新規就農者支援事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H22年度～)	
	1	6	1	2	50	3			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)							
◇事務事業の概要と実績			◇主な事業費(単位:千円)				
<p>30歳未満の新規就農農業後継者(年間150日以上農業従事、確定申告時に事業専従者)に対し、支援として1世帯あたり月額30,000円以内(30歳になる月の前月まで)を月単位で交付する。 また、45歳未満で、Iターン、Uターンにより経営主として農業を開始する新規就農者に対し、Iターンは年1,000,000円を、Uターンは年500,000円を2年間交付する。</p>			<p>◇平成29年度の主な事業費(単位:千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助金8,400(当初予算) 新規就農者 Iターン2人、Uターン2人 新規就農後継者 15人 				
(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	15,440	11,580	5,260	4,810	5,870
	事業費計 (A)	千円	15,440	11,580	5,260	4,810	5,870
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	人件費計 (B)	千円	664	686	686	697	697
トータルコスト(A)+(B)		千円	16,104	12,266	5,946	5,507	6,567
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>独立就農を目指す新規就農者や農業後継者にとって、補助金額は、充分とはいえないが、就農の動機付けとしてまた国の制度を補完する目的で制定された制度であるので有効な制度と考える。</p>	
<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>就農の動機付けとしてまた国の制度を補完する本市独自の制度であり、農業者からも好評を得ていることから、妥当性・有効性のあるものと評価できる。</p>	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 新規就農者1ターン2人、Uターン2人、新規就農後継者15人</p> <p>○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった</p> <p>年度当初計画では新規就農者1ターン2人、Uターン2人、新規就農後継者15人を想定。実績値は新規就農者Uターン7人、新規就農後継者8名に補助金交付ができたため目標は概ね達成できたと言える。(交付者・計15名)</p>	

事務事業名	6-25 鳥獣害等防止対策強化事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	3	50	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)								
◇事務事業の概要と実績 有害鳥獣被害防止対策事業の推進。 ・イノシシ、サルへの捕獲報奨金支払・各地区猟友会への有害鳥獣捕獲委託・有害鳥獣被害防止電気柵設置補助金交付・獣害防止柵の設置、補修原材料の支給・笛吹市鳥獣被害防止対策協議会への活動補助				◇主な事業費(単位:千円) ◇平成29年度の主な事業費(単位:千円) ・報償費 5,400 ・委託料 5,130 ・原材料費 3,000 ・補助金 2,157				
(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	1,010	7,498	1,152	3,045	2,897
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	11,294	25,381	7,354	12,361	13,542
	事業費計 (A)	千円	12,304	32,879	8,506	15,406	16,439	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
	人件費計 (B)	千円	3,318	3,430	3,430	3,483	3,483	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	15,622	36,309	11,936	18,889	19,922	
補助事業等		特定鳥獣保護管理事業費補助金、新規狩猟者確保対策事業費補助金、ツキノワグマ放獣事業費補助金						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 有害鳥獣の駆除は、地元猟友会に委託しているが、狩猟者が減少傾向である上に、有害獣が急激に増加しており、捕獲者の安全対策も講じる必要がある。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 有害獣が急激に増加していることから、囲いワナの設置等、地域・地元猟友会と積極的な連携を図る中で対応していく必要がある。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 電気柵等補助金額1,800千円、イノシシ、シカ、サルの捕獲数 180頭	
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
年度当初計画では電気柵等補助金額1,800千円、イノシシ、シカ、サルの捕獲数 180頭を目標とした。実績値は電気柵等補助金額1,000千円、イノシシ、シカ、サルの捕獲数285頭。被害面積は増加しており、捕獲頭数の増加・出没地域の拡大など、目標は概ね達成できているが、今後継続して獣害対策が必要だと思われる。	

事務事業名	6-26 農地中間管理事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠	農業経営基盤強化法・農地集積・集約化対策事業実施要綱					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始H27~)	
	01	06	01	03	02	02			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)								
◇事務事業の概要と実績 農地の中間受け皿となる農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化の加速化を支援 農地中間管理機構に対し農地を貸し付けた地域及び個人を支援することにより農地集積・集約化を推進し、農業経営の効率化を図る。				◇主な事業費(単位:千円) ・臨時職員賃金(受託事業) 2,161千円 ・交付金 400千円				
(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	1,834	1,040	1,200
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	625	949	1,561
	事業費計 (A)	千円	0	0	2,459	1,989	2,761	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	2,459	1,989	2,761	
補助事業等		農地中間管理事業業務委託費、農地集積・集約化対策事業実施要綱						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 農地の受け皿となる農地中間管理機構(公社)による、農地集積・集約化が進展し、農業経営の効率化が見込まれる制度である。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 農地の集約化、経営の効率化が進展し、農業生産性が高まり、競争力が強化されること。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	集積目標面積 60ha
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
H29年度集積目標面積60haに対して、34ha(11月時点)集約化が達成された。	

事務事業名	6-27 農地流動化地域総合推進事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林経営担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	3	300	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 農地利用促進事業 ・遊休農地の解消を図るため、農用地の借り手に対して農地流動化奨励補助金を交付する。 ・ふれあい農園の運営及び石和ミニ農園の運営事務補助	◇主な事業費(単位:千円) ○農地流動化奨励補助金 5,110千円 ・新規設定(基準) 20円/m2 ・認定農業者加算 20円/m2 ○委託料 市民農園管理委託516千円

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	258	258	182	182	
		一般財源	千円	8,549	4,895	7,346	6,302	
	事業費計 (A)	千円	8,807	5,153	7,528	6,484		
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.30	0.30	0.30	
	人件費計 (B)	千円	664	2,058	2,058	2,090		
トータルコスト(A)+(B)		千円	9,471	7,211	9,586	8,574	8,036	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 意欲ある借り手に対して補助金を交付したり、市民農園を貸し出すことにより、遊休農地の未然防止と担い手への農地集積が同時に行われるため、今後も効率よく農地の活性化を図ることが期待できる。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 意欲ある借り手に対して補助金を交付したり、市民農園を貸し出すことにより、遊休農地の未然防止と担い手への農地集積が同時に行われるため、今後も効率よく農地の活性化を図ることが期待できる。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 新たに利用集積された耕作面積 27.6ha ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
年度当初計画では新たに利用集積された耕作面積 27.6haを目標とした。実績値は利用集積された耕作面積 26.5ha。目標に対してはおおむね達成できたと言える。	

事務事業名	6-28 果樹共済加入補助費					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返	
	1	6	1	2	60	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 近年の異常気象による農産物被害の金銭的費用を軽減して、農家の経営安定に繋げる。 果樹共済の加入促進 事業費の内訳 補助金7,000千円	◇主な事業費(単位:千円) 事業費の内訳 補助金6,470千円

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	6,274	6,337	6,271	6,279	6,470
	事業費計 (A)	千円	6,274	6,337	6,271	6,279	6,470
人件費	正規職員延従事人数	人	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	人件費計 (B)	千円	66	69	69	70	70
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,340	6,406	6,340	6,349	6,540
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 農業者の経営安定の為に必要な制度である。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 自然災害は農業経営に重大な影響を及ぼすため、農業共済制度はこれからも必要な事業と考える。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 果樹共済加入面積 70ha ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった 概ね前年並の加入面積(65.0ha)があった。	

事務事業名	6-29 地域農業振興事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返	
	1	6	1	3	210	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 市内の農業環境を整備するため国、県の補助事業及び市単独補助事業を導入して事業を実施する。また地域農業の妨げとなる遊休農地の発生抑制と解消に努める。	◇主な事業費(単位:千円) 事業費の内訳 需用費 30千円 補助金 21,750千円

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	109,205	10,000	11,191	436,487	18,022
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	1,800	0
		一般財源	千円	29,115	1,089	13,499	75,247	3,758
	事業費計 (A)	千円	138,320	11,089	24,690	513,534	21,780	
	人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	6,635	6,860	6,860	6,965	6,965	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	144,955	17,949	31,550	520,499	28,745	
補助事業等		やまなし果樹産地施設等整備事業費補助金・産地パワーアップ事業補助金						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 補助金規定により支出している。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 農業振興を進めるには、遊休農地の解消は不可欠であるため引き続き事業を継続する。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 遊休農地の発生抑制と解消に努める。	
<input type="radio"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="radio"/> おおむね達成できた <input type="radio"/> 達成できなかった	
平成29年度においては、遊休農地の解消約1haが概ね図れた。	

事務事業名	6-30 農産物等消費拡大宣伝事業費					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	3	230	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)							
◇事務事業の概要と実績			◇主な事業費(単位:千円)				
桃・ぶどうを主とする果実及び市内産農畜水産物及びその加工品等について国内外で消費宣伝事業を行い、農業者の所得向上と併せて市の知名度向上を図る。			事業費の内訳 旅費 289千円 需用費 540千円 役務費 6千円 委託料 4,593千円				
(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,050	6,158	10,871	5,829	5,428
	事業費計 (A)	千円	4,050	6,158	10,871	5,829	5,428
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	6,635	6,860	6,860	6,965	6,965
	トータルコスト(A)+(B)	千円	10,685	13,018	17,731	12,794	12,393
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 地道な消費拡大宣伝を行った結果、県内農産物物の平均単価を上回っており成果は上がっている。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 消費拡大宣伝は継続して行わないと効果が出てこないため、地道な事業実施が必要である。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 市産農畜産物の消費拡大宣伝により、市の知名度向上を図る。	
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
平成29年度においては、県内他町村と比較して桃の平均販売価格がキロ100円高く有利に販売が図れた。	

事務事業名	6-31 中山間地域等直接支払推進事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返	
	1	6	1	3	250	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)								
◇事務事業の概要と実績				◇主な事業費(単位:千円)				
中山間地域において適切な農業生産活動等が継続されるよう農業生産の不利を補正する支援事業として、集落協定を締結し集落活動に取り組む集落に直接支払交付金を交付する。 市内6集落協定				報償費 90千円 需用費 130千円 役務費 8千円 交付金 2,106千円				
(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	6,194	6,179	1,595	1,493	1,567
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	2,505	2,498	848	735	767
	事業費計 (A)	千円	8,699	8,677	2,443	2,228	2,334	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.70	0.70	0.70	1.00	0.70
	人件費計 (B)	千円	4,645	4,802	4,802	6,965	4,876	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	13,344	13,479	7,245	9,193	7,210	
補助事業等		中山間地域等直接支払交付金、中山間地域等直接支払推進事業費補助金						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 中山間地域等の農業生産不利地域では、集落協定を締結し集落活動に取り組む集落に直接支払交付金を交付することで、新たな遊休農地の発生抑制に繋がっている。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 遊休農地の発生抑制に一定の効果はあるので、継続して事業実施する必要はある。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	中山間地域において適切な農業生産活動等が継続されるよう事業を行う。
	○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった
	平成29年度においては、事業実施した地区では遊休農地が新たに発生することが抑制でき適切な農業生産活動等の継続がされた。

事務事業名	6-32 地産地消推進事業					部局名	産業観光部	所属課	農林振興課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農産推進担当	課長名	雨宮 和博
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	06	01	07	02	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)							
◇事務事業の概要と実績				◇主な事業費(単位:千円)			
地域で生産された安全安心で新鮮な農産物を地域で消費する活動の促進を図るため、八代、境川、春日居農産物直売所及び八代、境川農産物加工センターの維持管理を行う。 ○指定管理者制度を利用して、市内にある農産物直売所4件、農産物加工センター2件に指定管理を導入した。				・需用費 1,515千円 ・委託料 1,305千円 ・使用料及び賃借料 565千円 ・工事請負費 2,450千円 ・原材料費 308千円 ・備品購入費 443千円			
(2) 総事業費の推移							
		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	13,203	30,240	4,431	3,868	6,694
	事業費計 (A)	千円	13,203	30,240	4,431	3,868	6,694
人件費	正規職員延従事人数	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
	人件費計 (B)	千円	1,991	2,058	2,058	2,090	2,090
トータルコスト(A)+(B)		千円	15,194	32,298	6,489	5,958	8,784
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 地産地消を推進するため広く市民に啓蒙する事業であり、今後とも必要な事業である。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 地産地消の重点拠点であり、地元農産物の販売を行なうことにより、安全で安心な農産物を地域住民へ提供し、地元の農産物を理解してもらうとともに「桃・ぶどう日本一の郷」としての啓蒙につながる事業である。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 農業関係施設の適切な運営と管理を行う。	
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
八代、境川、春日居農産物直売所及び八代、境川農産物加工センターの利用者数・乗客数は前年度比若干増加しており、また売上においても増加し、地域住民のみならず、多くの観光客の利用も確認される。	

事務事業名	6-33 県営畑地帯総合整備事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(開始年度 H16年度～H35年度)	
	1	6	1	5	10	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
<p>◇事務事業の概要と実績</p> <p>◇県が市の要望に基づき樹園地内の農道、水路、圃場整備等の改修、整備を行う事業で、市は事業費の25%の負担金を支払う。</p> <p>◇、一宮南部地区、黒駒西地区、藤埜地区、みさか桃源の郷地区の事業を計画的に実施している。</p> <p>◇事業主体である県と地元役員・地権者との連絡調整や事業説明会の開催、現地境界確認等の事業推進に必要な事務作業を計画的に進めている。</p>	<p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>○報奨金640 ○負担金127,409</p>

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	133,400	161,900	170,900	139,900	121,000
		その他	千円	2,300	1,220	393	1,792	640
		一般財源	千円	12,038	10,530	10,463	9,176	6,409
	事業費計 (A)	千円	147,738	173,650	181,756	150,868	128,049	
	人件費	正規職員延従事人数	人	1.50	1.40	1.30	1.30	1.30
	人件費計 (B)	千円	9,953	9,604	8,918	9,055	9,055	
トータルコスト(A)+(B)		千円	157,691	183,254	190,674	159,923	137,104	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
<p>1次評価者【課長・局長】</p> <p>地域や市の要望を基に市の財政負担25%で、農業基盤の整備を県が行うこの事業は有効性があり、効率性もよいため高評価で、今後も他地区からの要望もある。しかし、事業期間は8～10年と長く、総体事業費も多額なこと、完成までに農業者の高齢化が進むことや広域的で即効力のある有害獣対策が出来ない等があり、着手前から後継者の確保育成等の課題など、詳細な将来ビジョンを構築していく必要がある。</p>	<p>2次評価者【部長・消防長・支所長】</p> <p>事業として適正であり、効果もあった。</p>

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
<p>目標 農業基盤整備(農道・水路整備目標3000mに対し1700mの整備済、鳥獣害防護柵1500mに対し1400m)</p>	<p>○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった</p>
<p>畑総事業の農業基盤整備については、地元の希望順位に基づき実施しているが、用地交渉等が遅れ、目標数値までは、工事が完了できない場合も生じたが、用地契約箇所はが予定どおり完了しているため、来年度以降工事に着手できる見通しとなっている。今後も地元と協力して事業を進め農業基盤整備をすることで、農作業の効率化につなげ生産性の向上を図る。</p>	

事務事業名	6-34 中山間地域総合整備事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(開始年度 H16年度～H36年度)	
	1	6	1	5	10	5			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

<p>◇事務事業の概要と実績</p> <p>◇県が市の要望に基づき、地理的条件が悪く農業の生産条件が不利な地域を対象に、農業生産基盤と農村生活環境基盤の整備を総合的に行なう事業で、市は事業費の15%の負担金を支払う。</p> <p>◇黒駒東地区の事業を計画的に地元要望の順序に基づき実施している。</p> <p>◇事業主体である県と地元役員・地権者との連絡調整や事業説明会の開催、現地境界確認等の事業推進に必要な事務作業を計画的に進めている。</p>	<p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>○負担金6,750</p>
---	---------------------------------------

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	6,800	5,900	18,900	6,300	15,600
		その他	千円	0	504	336	578	0
		一般財源	千円	376	645	1,145	103	900
	事業費計 (A)		千円	7,176	7,049	20,381	6,981	16,500
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.20	0.20	0.20	0.20	
	人件費計 (B)	千円	664	1,372	1,372	1,393	1,393	
トータルコスト(A)+(B)		千円	7,840	8,421	21,753	8,374	17,893	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

地域や市の要望を基に市の財政負担15%で、農業基盤の整備を県が行うこの事業は有効性があり、効率性もよいため高評価で、今後も他地区からの要望もある。しかし、事業期間は8～10年と長く、総体事業費も多額なこと、完成までに農業者の高齢化が進むことや広域的で即効力ある有害獣対策が出来ない等があり、着手前から後継者の確保育成等の課題など、詳細な将来ビジョンを構築する必要がある。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

事業として適正であり、効果もあった。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 農業基盤整備(農道整備延長300mに対し260m、鳥獣害防護柵1000mに対し900m)

● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった

中山間地域総合整備事業の農業基盤整備については、地元の希望順位に基づき実施しているが、国からの補助金が予定より少なかったため希望どりの延長分の工事が進捗できなかったが予算分はすべて工事が完了した。今後も地元と協力して事業を進め農業基盤整備をすることで、農作業の効率化につなげ生産性の向上を図る。

事務事業名	6-35 県営用地補償契約事務委託事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	10	6			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

◇県営土地改良事業実施に伴う地元地権者との用地交渉を行うにあたり、必要な諸経費を計上し事務を進める。
 ◇県営事業用地地権者へ事業説明や用地・補償交渉のための通知文の発送や契約場所の確保、資料の作成、印刷などの事務作業を行う。

◇主な事業費(単位:千円)

○旅費19 ○需用費361 ○使用料及び賃借料20

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	365	286	280	369	200
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	112	0	162
	事業費計 (A)	千円	365	286	392	369	362	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	人件費計 (B)	千円	664	686	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,029	972	1,078	1,066	1,059	
補助事業等		県営用地補償契約事務委託料						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

県と同調して地元地権者との用地交渉にあたる事ができたため、事業の円滑な推進が行えた。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

事業の効果は満足のゆくものであった。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 県営事業地権者に対する説明会開催目標件数100回に対し92回開催。

● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった

県営事業である畑総、中山間、基幹農道整備事業の年度計画を推進するため、地元地権者との用地交渉をスムーズに進めるための事業説明会開催や用地交渉のための連絡調整を計画的に実施することができた。

事務事業名	6-36 笛吹川沿岸土地改良事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	20	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)

◇事務事業の概要と実績

◇既に事業完了した笛吹川沿岸畑かん施設等の維持管理及び建設にかかった事業費の市負担金の支払いを行う。
 ◇地域給水栓の維持管理を行う。
 ◇笛吹川沿岸土地改良事業等の負担金の支払と地域給水栓の凍結等による破裂の修繕を実施した。

◇主な事業費(単位:千円)

○需用費790 ○負担金134,805

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	40	40	40	40
	一般財源	千円	190,007	143,944	138,516	138,096	133,609
	事業費計 (A)	千円	190,047	143,984	138,556	138,136	133,689
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20	0.10	0.10
	人件費計 (B)	千円	1,327	1,372	1,372	697	697
トータルコスト(A)+(B)		千円	191,374	145,356	139,928	138,833	134,386
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載

1次評価者【課長・局長】

笛吹川沿岸畑かん施設の維持管理に係る負担金の支払については、滞りなく行えた。
 畑かんの地域給水栓は、地域農業者にとって重要な設備であるため、破損等の緊急時に速やかに修繕対応が行えた。

2次評価者【部長・消防長・支所長】

事業の効果は適正であった。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)

目標 現年度笛吹畑かん負担金徴収率昨年度実績82%に対し、92.7%徴収した。

● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった

事業完了した畑かん施設等の維持管理及び建設にかかった事業費の負担金の支払を行ったことで、畑かんの受益者に対し畑かん施設の利用等がスムーズにできた。過年度分の徴収が低いので、未納者に対し収納を進めていく。

事務事業名	6-37 土地改良事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	30	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇県営土地改良事業で事業を実施するための予算と各種土地改良団体が事業を行う総務的経費を支出する。 ◇県営土地改良事業等に係る賦課金や負担金、農業土木積算システムの保守費、春日居地区土地改良事業の償還金支払をする。また、土地改良区の活動支援補助金を交付した。	◇主な事業費(単位:千円) ○委託料3,839 ○負担金18,095 ○補助金835

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	7,877	6,709	0	0	0
		一般財源	千円	39,055	31,402	28,382	22,996	22,769
	事業費計 (A)	千円	46,932	38,111	28,382	22,996	22,769	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	人件費計 (B)	千円	664	686	686	697	697	
トータルコスト(A)+(B)		千円	47,596	38,797	29,068	23,693	23,466	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 県土地改良団体等への負担金支払や地域の土地改良団体等への補助金交付については、滞りなく行えた。合併後も継続している既に終了した春日居地区の土地改良事業に係る償還金の財源となる個別からの徴収については、支所業務から当課へ業務移管されたため、引継ぎ等にまだ不十分な点がある。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 事業内容、効果とも適正であった。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 農業施設(畑かん等)の受益農家数4187戸	
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
県営土地改良事業等に係る賦課金や負担金、農業土木積算システムの保守費、春日居地区土地改良事業の償還金支払をしたことにより施設の維持管理ができる。また、土地改良区の活動支援補助金を交付した。今後も計画的に償還や活動の支援を行っていく。	

事務事業名	6-38 農業施設整備事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	30	2			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇市内の行政区等の要望・政策的に整備の必要な箇所を精査し、緊急性・費用対効果等も考えながら年次的に農業基盤を整備する。 ◇毎年市内の行政区より農道や用水路等の農道基盤整備の要望書を提出してもらい緊急性、費用対効果、優先度を検討するなかで測量調査、工事施行を実施している。	◇主な事業費(単位:千円) ○給料4,282 ○職員手当2,664 ○旅費72 ○需用費384 ○委託料36,800 ○工事請負費243,000 ○公有財産購入費6,195 ○補償費 112,126

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	22,215	33,852	19,250	21,356
		地方債	千円	222,900	274,800	371,500	458,600
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	20,670	28,132	32,355	29,342
	事業費計 (A)	千円	265,785	336,784	423,105	509,298	
	人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	2.00	2.00	2.00
	人件費計 (B)	千円	13,270	13,720	13,720	13,930	
トータルコスト(A)+(B)		千円	279,055	350,504	436,825	523,228	420,764
補助事業等		県単土地改良助成費補助金					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 農道や用水路等の農業基盤の整備は、地域の農業生産性の向上に直結するため、今後なるべく多くの地区要望に対して実施できるよう継続して行う。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 事業の内容、効果とも期待以上であった。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 今年度の地域要望件数は58件あり21件を実施した。目標値38%に対し実施率は36%である。	
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
各行政区より農道や用水路等の農道基盤整備の要望書を提出してもらい緊急性、費用対効果、優先度、必要性を検討するなかで測量調査、工事施行を実施した。	

事務事業名	6-39 資源保全事業					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠	土地改良法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	30	3			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇農地、農業用水路等の資源を、将来にわたり適切に保全し質的向上を図る活動組織を支援する。農業施設の老朽化や小規模な災害に対応した緊急修理等を施工する。 ◇行政区より農道や用水路等の修繕の要望書を提出してもらい農業施設の老朽化等による破損等の緊急性・必要性を検討するなかで対応している。	◇主な事業費(単位:千円) ○共済費134 ○賃金897 ○需用費7,850 ○委託料6,006 ○使用料1,020 ○工事請負費63,970 ○原材料費2,677 ○負担金26,129

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	20,585	20,650	20,450	20,706
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	63,082	78,647	98,273	69,677
	事業費計 (A)	千円	83,667	99,297	118,723	90,383	
	人件費	正規職員延従事人数	人	1.70	1.70	1.70	1.70
	人件費計 (B)	千円	11,280	11,662	11,662	11,841	
トータルコスト(A)+(B)		千円	94,947	110,959	130,385	102,224	121,265
補助事業等		多面的機能支払交付金					

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 農道や用水路等の農業基盤の維持管理は、地域の農業生産性の向上に直結するため、今後もなるべく多くの地区要望に対して実施できるよう継続して行う。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 事業の内容、効果とも期待以上であった。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 地域要望実施は120件の要望に対し、58件実施済みであり、目標の38%に対し48%であった。	
● 目標どおり達成できた ○ おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
各行政区より農道や用水路等の修繕補修の要望書を提出してもらい農業施設の老朽化による破損等の緊急性、必要性を検討するなかで修繕・補修の対応をして目標の38%以上を達成した。今後も緊急性・必要性を判断する中、適切かつ迅速に対応していく。	

事務事業名	6-40 林道維持管理費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～) 蕪入沢林道舗装更新～H30まで	
	1	6	1	5	50	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
<p>◇事務事業の概要と実績</p> <p>◇市内林道の管理、補修業務及び治山工事にかかる事業を実施する。</p> <p>◇市内林道の管理・補修を行うため年間を通じ定期的に巡回パトロールを実施した。また、大雨で林道が破損したときは関係機関と連携したうえで早期の機能回復に努めた。</p>	<p>◇主な事業費(単位:千円)</p> <p>○需用費3,007 ○使用料2,950 ○工事請負費16,127 ○原材料費1,220 ○負担金10</p>

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	5,900	4,600	20,000	20,000	9,500
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	10,847	23,434	28,012	10,100	13,814
	事業費計 (A)	千円	16,747	28,034	48,012	30,100	23,314	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.30	0.30	0.30	0.20
	人件費計 (B)	千円	3,318	2,058	2,058	2,090	1,393	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	20,065	30,092	50,070	32,190	24,707	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】	林道や付帯設備等の維持管理は、地域の林業生産性の向上に直結するため、今後もなるべく多くの課題に対して実施できるよう継続して行う。
2次評価者【部長・消防長・支所長】	事業の内容、効果とも適正であった。

(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	林道整備延長 目標値 150m
<input checked="" type="radio"/> 目標どおり達成できた <input type="radio"/> おおむね達成できた <input type="radio"/> 達成できなかった	
今年度の林道整備延長の目標値150mに対し141mの整備をした。蕪入沢の林道舗装工事と市内全域の林道補修管理を行ったが、予定通りの事業が行えた。	

事務事業名	6-41 農林水産施設災害復旧費					部局名	産業観光部	所属課	農林土木課
施策名	6	桃・ぶどう日本一を誇れる魅力的で安定的な農林業づくり				担当名	農林土木担当	課長名	大勝 忠彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	6	1	5	10	1			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 ◇市内農道・農業用排水路の災害が発生した時の災害復旧事業を行う。	◇主な事業費(単位:千円) ○消耗品4 ○委託料4,136 ○工事請負費使用料39,000

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	20,442
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	14,100
		その他	千円	0	0	0	0	8,594
		一般財源	千円	0	0	0	0	4
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	43,140	
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.40
	人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	2,786	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	45,926	
補助事業等		被災施設等応急対策事業費補助金						

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 台風による大雨で農地及び林道の施設が被災したが、早期に現地確認をはじめ、災害復旧計画を立て、国庫補助事業として採択を受けることができた。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 被災後の迅速な対応で国庫補助金を受けることができ、災害復旧工事を進めており、評価できる。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 被災箇所3箇所について、災害復旧事業を行う。	
<input checked="" type="radio"/> 目標どおり達成できた <input type="radio"/> おおむね達成できた <input type="radio"/> 達成できなかった	
予算を確保し、災害復旧事業できた。	

事務事業名	7-46 企業立地推進事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H25年度～)	
	01	07	01	01	06	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 地元雇用の創出、固定資産税増収のため、固定資産課税免除と併せ助成金を交付し、積極的な企業誘致を行う。 工場誘致奨励補助金 1件(米福) 企業立地促進事業助成金 2件(ジインズ、シチズン電子タイメル)	◇主な事業費(単位:千円) 工場誘致奨励補助金 2,684 企業立地促進事業助成金 40,036

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	2,284	5,611	5,024	50,720
	事業費計 (A)	千円	0	2,284	5,611	5,024	50,720
人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	13,270	6,860	6,860	6,965	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	13,270	9,144	12,471	11,989	57,685
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 この事業は地元雇用の創出と拡大、固定資産税と市民税の増税のため非常に効果がある事業である。土地の有効活用と農地保全の整合性を踏まえた上で、企業誘致を推進していくべきである。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 この事業は地元雇用の創出と拡大、固定資産税と市民税の増税のため非常に効果がある事業であるである、引き続き有効に活用してもらいたい。	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 地元雇用創出、固定資産税増収のため、積極的に企業誘致を行う。 ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
誘致については、対象が企業であるために効果がすぐにでるものでないが、今年度においては2社の企業誘致が行われた	

事務事業名	7-47 労働総務事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	05	01	01	01	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 市内企業の人材確保と市民の就業支援対策として、就職ガイダンスを開催する。 参加企業数 33社 参加者数 41名	◇主な事業費(単位:千円) 就職ガイダンスチラシ印刷代等 633

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	618	639	646	657	647
	事業費計 (A)	千円	618	639	646	657	647	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	
	人件費計 (B)	千円	6,635	6,860	6,860	6,965	6,965	
トータルコスト(A)+(B)		千円	7,253	7,499	7,506	7,622	7,612	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】	地元企業の人材確保と市民の就業支援対策として、就職ガイダンスを開催している。山梨県内においても大手企業においては、県内を対象にした就職ガイダンスに参加できるが、市内の中小企業においては、なかなか難しいところがある。市主催の就職ガイダンスを有効に活用でき、さらに、実情に即したガイダンスになるよう開催日の変更等をおこない学生及び就職希望者と雇用者が効率が良いガイダンスが開催できるようにする。
2次評価者【部長・消防長・支所長】	笛吹市内の企業の人材確保と市民の就業支援対策として、就職ガイダンスの充実を図るようを行う。
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標	就職ガイダンスを実施して、企業人材確保と市民の就業支援を行う。 ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった
参加企業数 33社 参加者数 41名	

事務事業名	7-48 シルバー人材センター補助費					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	05	01	01	01	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 高齢者の就業機会を確保するため、笛吹市シルバー人材センターの健全運営及び事業推進を図る。	◇主な事業費(単位:千円) 笛吹市シルバー人材センター補助金 12,595

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	12,000	131,000	12,345	12,645	12,645
	事業費計 (A)	千円	12,000	131,000	12,345	12,645	12,645	
	人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	6,635	6,860	6,860	6,965	6,965	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	18,635	137,860	19,205	19,610	19,610	
補助事業等								

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 人材不足と高齢者の就業機会を確保するため、笛吹市シルバー人材センターを活用し地域の事業の推進を図ってもらう。また、笛吹市シルバー人材センターの健全運営及び事業推進を図るために引き続き補助を行っていく	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 雇用の確保を図るためと高齢者の就労の機会を図るため実施する	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 高齢者の生きがいづくりや就業機会の提供を行う。	
○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった	
笛吹市シルバー人材センターの利用は非常に多い	

事務事業名	7-49 商工総務費					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	07	01	01	02	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 市内企業との意見交換会の開催、商工業融資の受付認定事務、融資に対する補助金の交付など、商工業の活性化を図る。	◇主な事業費(単位:千円) ものづくり企業意見交換会会場借上げ 102

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	11	1,275	1,170	1,302	1,271
	事業費計 (A)	千円	11	1,275	1,170	1,302	1,271
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	6,635	6,860	6,860	6,965	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,646	8,135	8,030	8,267	8,236
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 市内企業の拡充を図ることも含め、市内企業との意見交換会を開催し行政と民間企業との現状を確認し市内の中小企業の推進を図る。引き続き行政としては商工業融資の受付認定事務、融資に対する補助金の交付などえを行い、商工業の活性化を図る。	
2次評価者【部長・消防長・支所長】 市内企業との意見交換会を開催し行政と民間企業との現状を確認し市内の中小企業の推進を図ることを目的とし実施する	
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 市内企業との意見交換等を行い、商工業の活性化を図る。 ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった ものづくり企業との意見交換会を実施し、企業のトップと市長との意見交換が行われ今後の商工業の方向性について協議が行われた。	

事務事業名	7-50 商工関係団体補助費					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	07	01	01	03	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 笛吹市商工会・ワイン会等が実施する各種事業及び運営に係る補助を行い、地域経済の活性化を図る。 笛吹市商工会員数 1,736人	◇主な事業費(単位:千円) 笛吹市創業支援事業委託 4,000 笛吹市商工会補助金 29,000 笛吹市ワイン会補助金 850

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	32,105	29,830	29,912	34,080	34,045
	事業費計 (A)	千円	32,105	29,830	29,912	34,080	34,045
人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	13,270	6,860	6,860	6,965	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	45,375	36,690	36,772	41,045	41,010
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 創業支援への経営、融資等の指導には専門性が必要であることから、経営指導員がいる商工会にワンストップ窓口を設け効率性を図る。さらに、笛吹市商工会・ワイン会等が実施する各種事業及び運営に係る補助を行い、地域経済の活性化を図る。	2次評価者【部長・消防長・支所長】 笛吹市商工会・ワイン会の事業にかかる運営に係る補助を行い、地域経済の活性化が図られている。
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 地域経済の活性化や創業(起業)支援を行う。 ○ 目標どおり達成できた ● おおむね達成できた ○ 達成できなかった 笛吹市商工会のワンストップ窓口の設置により気軽に相談が行われている。	

事務事業名	7-51 商工振興災害対策資金事業					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H25年度～H29年度)	
	01	07	01	01	03	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 東日本大震災により経営が悪化した事業者に対し、商工振興災害対策資金融資に係る利子について、5年間で限度に補助する。 商工振興災害対策資金利子補助 1件	◇主な事業費(単位:千円) 商工振興災害対策資金利子補助金 1 商工振興災害対策資金代位弁済金 162

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	19,059	14,780	7,424	1,483	163
	事業費計 (A)	千円	19,059	14,780	7,424	1,483	163
人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	13,270	6,860	6,860	6,965	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	32,329	21,640	14,284	8,448	7,128
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 東日本大震災により経営が悪化した事業者に対し、商工振興災害対策資金融資に係る利子についての事業である、また、この地域について影響が減しているが、対象となる企業がある場合は引き続き補助を行う。	2次評価者【部長・消防長・支所長】 東日本大震災により経営が悪化した事業者に対し、商工振興災害対策資金融資に係る利子についての事業である。この事業を有効に活用してもらいたい。
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 笛吹市商工振興災害対策資金制度に基づき、利子補助を行う。 <input type="radio"/> 目標どおり達成できた <input type="radio"/> おおむね達成できた <input checked="" type="radio"/> 達成できなかった 対象となる事業者が1件のみであった。	

事務事業名	7-52 小規模企業者小口資金融資促進費					部局名	産業観光部	所属課	観光商工課
施策名	7	活力ある地域経済づくり				担当名	商工労働担当	課長名	小宮山昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	01	07	01	02	02	01			

1 現状把握 (PLAN) (DO)

(1)事務事業概要及び主な事業費の内訳(平成29年度実績)	
◇事務事業の概要と実績 小規模企業者を対象とした小口資金融資制度に係る審査会の開催と利子及び保証料の補助。 小口資金利子補給補助 4件	◇主な事業費(単位:千円) 小口資金利子補助補給補助金 50 小口資金融資代位弁済金 529

(2) 総事業費の推移		単位	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (決算)	28年度 (決算)	29年度 (決算見込み)
投入量	事業費	財源内訳					
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	172	137	137	185	579
	事業費計 (A)	千円	172	137	137	185	579
人件費	正規職員延従事人数	人	2.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	人件費計 (B)	千円	13,270	6,860	6,860	6,965	6,965
トータルコスト(A)+(B)		千円	13,442	6,997	6,997	7,150	7,544
補助事業等							

2 評価 (CHECK) 妥当性・有効性・効率性評価を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION)

(1) 全体総括 ※1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価。議会事務局・農業委員会事務局については、1次評価に記載	
1次評価者【課長・局長】 小規模企業者を対象とした小口資金融資制度に係る審査会の開催と利子及び保証料の補助であることから、有効に活用し企業の適正な運営が図られるよう、今後も推進を行う。	2次評価者【部長・消防長・支所長】 小規模企業者を対象とした小口資金融資制度であることから、有効に活用した取り組みを進めてもらいたい
(2) 平成29年度の目標に対する達成度(実績値等を明記のうえ下記に理由を記載)	
目標 小規模企業者を対象に小口資金融資制度に係る利子等補助を行う。 <input type="radio"/> 目標どおり達成できた <input checked="" type="radio"/> おおむね達成できた <input type="radio"/> 達成できなかった 小口資金利子補給補助 4件 である	